



温暖化の余波食卓に

総務省の消費者物価指数によると、食用油の価格は、2020年水準と比べると、9月には58%も上昇しました。特に、健康志向も相まって人気が高まっていたオリーブオイルの価格が高騰を続けています。この値上がりの最大の原因は、オリーブの主な産地であるヨーロッパでの深刻な不作です。スペインを中心とした地中海沿岸地域は、去年と今年、2年連続で熱波や干ばつに見舞われました。地中海沿岸のオリーブオイル生産国の中には、国内価格安定のため断続的にオリーブオイルの輸出を制限しているそうです。



スペイン産のオリーブオイルをはじめ年間約6万トンを入力する日本は、今年の1月から8月の輸入量は、前年比、15.7%減ったのに対し、輸入額は18.6%上がりました。これは、オリーブオイルの高騰を意味します。日本のメーカーも最大5割強の値上げを発表しています。

地中海地域の干ばつは、温暖化によって発生しやすくなっていて、海外の研究チームの分析によると、今年の夏にスペインで発生したような激しい熱波は、南ヨーロッパでは、10年に一度程度発生すると予測されています。温暖化の余波は、食卓にも影響を与えています。

学校百景 その⑦：メッセージを伝える窓

これは2学期の出来事なのですが、5年生が宿泊教室に行く前に、6年生の教室がある3階校舎の中庭に面した窓に「宿泊教室行ってらっしゃい」と一文字ずつ画用紙に書いてあり、貼ってありました。5年生が、宿泊教室から帰ってきた後、同じく3階校舎の5年生の教室の窓には、「ありがとう。行ってきました」と貼ってありました。その後、6年生の教室の窓には「宿泊教室お帰りなさい」と貼ってありました。学校を支えてくれている高学年ですが、中庭を挟んで互いにメッセージをやり取りしている姿に、絆を感じることができ、あたたかい気持ちになりました。

昨年度も、メッセージを伝え合う姿があり、こういうことが伝統として受け継がれていることが素敵だと思います。

